

平成28年度 瀬谷西高等学校 不祥事ゼロプログラム 検証結果

【評価基準】

- A 行動計画を完全に実施し、事故・不祥事防止に十分な成果があった。
- B 行動計画を実施し、事故・不祥事防止の成果があった。
- C 行動計画を実施したが、事故・不祥事防止に効果的でなかった。
- D 行動計画の実施が不十分であった。

<共通課題> ① 公務外非行

目標		公務員として、県民の信頼を失うことのないよう、公務外非行の発生を未然に防止する。		推進担当:キャリア活動支援G	
行動計画		達成事項		反省点・課題	
i	今年度も引き続き、公務外非行に関する事故・不祥事やヒヤリハットの事例集を作成・配付し、事故・不祥事の未然防止を図る。	10月事故防止会議において、具体的な事例を紹介し、朝の打ち合わせ等でも継続的に、公務員としての自覚と危機管理の意識を啓発した。		今後もより意識が高められるよう、継続していく。	
ii	通常の職員の服務についてだけでなく「職員行動指針」についても職員に周知徹底し、様々な事故・不祥事を未然に防ぐとともに、不祥事に対して適切な対応をとれるようにする。	事故防止会議において、不祥事防止チェックリストを配付し、公務員としての自覚と危機管理の意識を啓発した。		さらに意識が高められるよう、継続していく。	

<共通課題> ② セクハラ・わいせつ行為

目標		教職員の人権意識を高め、セクハラ・わいせつ行為を未然に防止する。		推進担当:生徒活動支援G	
行動計画		達成事項		反省点・課題	
i	平成28年5月に全職員にスクールセクハラの啓発資料を配付し、セクハラ・わいせつ行為の防止を啓発する。	平成28年5月に全職員にスクールセクハラの啓発資料を配付し、セクハラ・わいせつ行為の防止に関する意識啓発を行った。		成果があった	
ii	平成28年5月にスクールセクハラ自己チェックを実施し、スクールセクハラ防止の啓発を図る。	同上事故防止会議で「STOP! ザ・セクシャル・ハラスメント」(県教委作成資料)を配布、その中のセクハラセルフチェック・リストを使い、自己チェックを実施した。		成果があった	
ii	部活動インストラクター、教育実習生等に対しても、人権意識に関する注意を喚起する。	校長面接後に、部活動指導ハンドブック(部活動インストラクター編)を配付し注意を喚起した。		部活動インストラクター、教育実習生の活動状況についての把握は十分でなかった。	

<共通課題> ③ 体罰・不適切指導

目標		体罰や不適切な指導の発生を未然に防止する。		推進担当:生活指導G	
行動計画		達成事項		反省点・課題	
i	平成28年7月までに体罰や不適切な指導等の防止や指導の基準に関わる啓発資料を職員会議等で配付し、意識啓発を図る。また、さまざまな場面を想定したケーススタディなども取り入れる。	平成28年7月に事故防止会議で資料を配付し、意識啓発を行った。		さらに身近な課題意識を涵養するため、様々な場面を想定したケーススタディ等を盛り込む。	
ii	生徒指導等の際には、複数の教員にあたるなど、適切な対応を行う。	生活指導の基準を日常的に職員全体に周知徹底し、次年度に向けた生活指導の手引きの見直しを行った。		生徒への複数対応を常に心がけ、不適切な対応を防止した。	

<共通課題> ④ 成績処理及び通知票や進路関係書類の作成及び取扱いに係る事故防止

目標		成績処理及び通知票や調査書等の発行に係るミス無くす。		推進担当:学習G及びキャリア支援G	
行動計画		達成事項		反省点・課題	
i	学期末の成績処理に係る点検項目を明確に示し、誤入力や点検漏れ防止の徹底を図る。また、日常の担当者個人段階でのミスをなくすよう注意喚起する。	マニュアル兼用となる詳細な点検チェック表を用意し、成績処理に係る点検項目を明確に示した。		成績処理期間における成績のチェック体制は十分だが、日常における担当者個人の段階での確認作業のさらなる徹底が必要である。	
ii	新成績処理支援システムに関するマニュアル兼用のチェック表を十分に活用し、円滑な運用に向けた研修会を開催する。	マニュアル兼用となる詳細な点検チェック表について学年会等で入念な説明を行い、円滑な運用を図った。		成績処理支援システム入力後のチェック体制は十分だが、運用方法が変わったため、より丁寧な研修が必要である。	
iii	進学・就職・推薦それぞれの調査書点検に関するマニュアル兼用のチェック表を活用し、担当者対象の説明会等で周知する。	マニュアル兼用となる詳細な点検チェック表について学年会等で周知した。		記載内容の整合性の点検のさらなる徹底が必要である。	

<共通課題> ⑤ 個人情報等管理、情報セキュリティ対策

目標		情報セキュリティ対策を充実し、個人情報の流出を未然に防止する。		推進担当:総務・管理G	
行動計画		達成事項		反省点・課題	
i	平成28年4月に情報セキュリティに関する規則等を職員会議等で全体に周知し、個人情報等の管理の徹底を図る。	平成25年4月に情報セキュリティに関する規則やマニュアル等を職員会議等で全体に周知し、個人情報等の管理の徹底を図った。		日常的に実際の遂行状況の把握を徹底する。個人情報の管理の方法をもっと徹底する必要がある。そのために職員の自覚を高めていくような周知方法が必要である。	
ii	平成28年10月までに校内共有フォルダ等を刷新し、個人情報等の管理の徹底を図る。	新しいシステムへの移行はスムーズに行われた。		刷新当初は、運用方法で戸惑った職員もいた。	
iii	平成28年12月までにメール、ウェブサイト等の情報発信のシステムマニュアルを最新のものに更新する。	マニュアルの刷新はほぼ出来上がった。		完成系のマニュアルにはもう少し時間をかけていかないといけない。	
iv	個人情報・著作権・肖像権に十分配慮して、常に最新の情報になるよう更新に努める。	担当者だけではなく、各職員が常に気を使って更新した。		日常的に、各職員の注意を喚起する必要がある。	

<共通課題> ⑥ 交通事故防止、酒酔い、酒気帯び運転防止、交通法規の遵守

目標		推進担当:研究・広報G	
交通事故の防止と酒酔い・酒気帯び運転を防止する。			
行動計画		達成事項	反省点・課題
i	平成28年7月までに自家用自動車通車者や運転免許保持者に資料を工夫した「チェックリスト」を配付し、注意を喚起する。	事故防止会議において、資料を配付し、意識啓発を図った。	時間の関係もあり、チェックリストを綿密に行うことができなかったため、資料を工夫する必要がある。
ii	平成28年11月までに交通事故防止、酒酔い・酒気帯び運転防止に関する啓発資料、チェックシート等を作成し、職員会議等で配付し、事故の未然防止に向けた意識啓発を図る。	11月事故防止会議において「交通事故防止、酒酔い、酒気帯び運転防止」に関する資料を配付し、意識啓発を図った。	色々な機会を通じて、事故の多い時期には特に職員の意識を高められるような工夫をする必要がある。

<共通課題> ⑦ 業務執行体制

目標		推進担当:総務・管理G	
業務の執行体制の不備による事故を未然に防止する。			
行動計画		達成事項	反省点・課題
i	引き続き、各グループ業務の見直しと次年度に向けた業務の再編整備を進める。	業務内容を確認し、再編整備を行う計画をしたが、再編には及ばなかった。	現状に合った業務の見直しを実施し、適切な業務内容の検討をする必要がある。
ii	執務環境の整理整頓及び美化清掃を推進し、業務の円滑な執行体制を整備する。	引き続きリースモップを使用し、廊下・特別教室に配置した。必要備品を設置し、印刷室の整備を行った。美化委員会を組織的に運用し、校内の美化活動を行った。	階段・廊下・トイレ等の共用部分の点検を定期的に行う必要がある。
iii	不祥事ゼロプログラムに係る具体的な取組及び実施状況を継続的にとりまとめる。	各教育活動の安全安心に向けた取組を各学期ごとにとりまとめ、時期の改善に役立てた。	今後も継続実施する。

<共通課題> ⑧ 会計事務等の適正執行

目標		推進担当:事務及び管理職	
現金管理を含む私費会計の適正な処理を行う。			
行動計画		達成事項	反省点・課題
i	今年度についても部活動顧問総会で「予算の執行方法について」を配付、また「私費会計の適正な執行について」を職員会議で配付し、私費会計事務全般の適正な運用について周知する。	平成28年9月、12月に職員に資料を配付し、私費会計事務全般の適正な運用について周知し、その都度ケースに応じた個別指導を行った。	引き続き、私費会計の事務について、周知し、チェックを徹底する。
ii	財務事務調査の結果を踏まえた事故防止研修会を開催し、問題点はすぐに改善する。	平成28年12月に財務事務調査指導結果について資料を配付し、問題点を中心に周知・徹底した。	指摘のあった事項については、すぐに見直しを行い、改善を行った。引き続き、私費会計の事務について、周知し、チェックを徹底する。

<共通課題> ⑨ 入学者選抜に係る事故防止

目標		推進担当:学習G及びキャリア支援G	
入学者選抜におけるミスを中心に防ぐ。			
行動計画		達成事項	反省点・課題
i	入学者選抜に関するマニュアルを作成し、職員会議での読み合わせを行い、未然に事故を防止する。	新しいシステムになったため、丁寧な読み込みを行い、事故を防止した。また、時間をかけて点検等をし、急がせた状況での作業はしないように心がけた。	初めての作業だったので、時間の有効活用はできていなかったと思われる。
ii	調査書点検等に係る点検項目を作成し、誤入力や点検漏れの徹底を図る。	丁寧な作業で、分担をはっきりさせ、確実な作業を行った。	ミスは、点検で見発することができた。
iii	特に採点業務に関しては、県の新しいプログラムに従い、県民の信頼に応えるようミスゼロを確実に達成する。	慣れない作業だったが、マニュアルをしっかりと読みこんで作業にあたったため、ミスはなかった。	システム自体が新しいため、作業も変わっていく可能性があるため、マニュアルの読み込みは毎年十分にしている必要がある。

<独自課題> ① 各種伺いや認定の届出

目標		推進担当:事務及び管理職	
各種伺いや届出等の漏れや誤申請を未然に防止する。			
行動計画		達成事項	反省点・課題
i	各種届け出等に漏れがないよう、適宜点検及び指導を行う。	起家様式を徹底し、より起家内容を明確に把握できるようにした。非常勤講師や教員補助者の勤務変更等確認用紙を作成し的確な管理を行った。	起家の作成の仕方については今後も日常的に指導していく。

<独自課題> ② 徹底した情報の共有化

目標		推進担当:管理職及び企画会議	
「報・連・相」による情報の共有化の徹底を図り、組織的な学校運営に取り組み、事故・不祥事を未然に防ぐ			
行動計画		達成事項	反省点・課題
i	日々、起こりうる事故防止に向け、年間を通じて「今週（または本日）の一言」として全職員で確認する。	朝の打合せで「今週の一言」を管理職が常に確認し、職員の意識を啓発した。	より適切な行動がとれるよう、伝え方など工夫する必要がある。
ii	管理職への連絡体制のさらなる確立と、情報の共有化の徹底を図り、いかなる案件の処理についても管理職及び関係グループ（学年）リーダーからの指示の元、組織的に対応する。	職員の報告体制は概ねできている。文書化された報告による情報の共有化も進んできた。	「報・連・相」に基づく、より一層の情報の共有化の徹底を図る必要がある。